

## 2019（令和元）年度事業並びに決算の概要

本互助組合は、本県における教育文化の発展と組合員の福利厚生の上昇を図るため、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づき、各種事業の自主的・自律的な運営に努めているところです。

本県においても、「働き方改革」により教職員の業務負担軽減が求められる中において、一人ひとりの子どもに向き合いながら今日的課題に対応していく教職員の心身の健康と生活を様々な形でサポートする本互助組合の果たすべき役割はますます重要となっています。

一方、国内経済金融市場に目を向ければ、日銀の金融緩和姿勢は構造的に定着する可能性が高いと予想されるなど、資金の運用環境はより厳しい状況にあります。

2019（令和元）年度決算については、経常収益合計が1,038,395,862円、経常費用合計が1,148,962,912円、評価損益合計が11,753,426円、当期における一般正味財産については、98,813,624円の減となっており、当年度の一般正味財産期末残高は2,518,527,970円となりました。

今後も、超低金利による利息収入の減収は避けられないことから、収支の均衡を図りながら健全な財政運営に努め、引き続き各種事業の見直しと充実に努めてまいります。

### 【事業執行の概要】

- 1 公益文化事業については、鹿児島県教職員共助会と共催してスクールコンサートを枕崎市市民会館、県立鹿児島養護学校体育館、いちき串木野市市民文化センター及び出水市立西出水小学校体育館の4か所で行いました。
- 2 給付事業においては、組合員及び被扶養者が疾病及び負傷によって治療を受けたときに給付する医療補助金について、対象となる被扶養者の見直しを行いました。また、組合員として引き続き20年以上加入し、退職した組合員に給付する退職組合員慰労費の額を改定しました。
- 3 健全な財政運営を確保するため、経済等の動向を注視しつつ幅広く情報収集を行うとともに、資産構成と運用方法を検討しながら、より安全かつ効率的な資金運用に努めました。